

## 第1学年における技術教育の新たな試みとその教育効果

○檜山由香里<sup>1)</sup>，生江麻代，谷口智也<sup>1)</sup>，望月泰男<sup>1)</sup>，山藤賢<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 昭和医療技術専門学校)

【はじめに】本校は、過去本学会にて第2学年、第3学年の客観的検査技術能力試験（以下OSCE）の重要性について発表してきた。今回、本校で毎年行っている臨地実習担当者連絡会議においての現場の技師の意見などを参考に、学内実習の在り方を見直し、3年後及び卒業後の技術能力を見据えた、学生個人の学内実習の充実・向上を計るために第1学年時よりの実技試験を考案し検討したので報告する。

【目的】現在、第2学年(5日間)、第3学年(4日間)においてOSCEを取り入れているが、それだけでは不十分と考え、プレOSCEを導入することで、基本的な技術能力を1年時に確認させ、学生の技術水準を高める目的と、2,3年次OSCEへと繋がる学内実習の受け方により意識を高めさせ、技術能力を身につけることの重要性を体験することを目的とした。

【対象及び方法】実施日は平成21年12月14, 16, 19, 21日の4日間（半日）、対象者は第1学年生58名、評価教員2～3名とする。また練習日として放課後に2日間練習日を設けた。試験方法は、試験時間20分、フィードバック5分で4名行う。内容は、試薬調整とそれに伴う器具の使用法、片付けまでを行う。試験終了後、学生にはアンケート調査を実施し、学科責任者は教員に対して対面聞き取り調査を行った。

【結果】実技試験の評価は段階別評価表を用い、到達目標は濃度計算をすることができる、天秤を正しく使うことができるなど12項目であり、学年全体の平均点は82.1点であった。アンケートにおいて『力を発揮できたか』の問いに対し、発揮できたと回答したのは34.5%だった。また『このような実技試験は必要か』の問いに対して98.3%の学生が必要と答えた。教員への聞き取り調査では、2年次に進級した時の個人レベルでの実習指導の目安ができ、事前に学生の基礎技術能力が把握でき良いなどの回答があった。

【考察】今回のプレOSCE導入の試みにより、第1学年生の実習を担当していない教員も、1年時にどの程度学生が実習内容を理解し技術習得しているかを客観的に把握することができ、教員間の学生情報の共有がより深まる効果が期待できる。また、全体的にも学生の弱点を早期に発見することができるため、2年生の実習において、予め説明の仕方など、より良い方法を選択することが出来る効果が期待できる。また、何よりも試験をうけた学生自身が、自分の出来ない操作や苦手な操作を把握することができ、一人一人が自分の授業や実習の取り組み方を早期に自覚し、「自分自身で考える」ことが出来るようになる。その結果が個々のレベルアップを促し、学内実習の質の向上、意欲の向上にも繋がることを期待したい。